



# 平成22年8月期 第3四半期決算短信

平成22年7月1日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 鉄人化計画  
 コード番号 2404 URL <http://www.tetsuiin.ne.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成22年7月1日  
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 日野 洋一  
 (氏名) 浦野 敏男

TEL 03-5773-9184

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年8月期第3四半期の連結業績(平成21年9月1日～平成22年5月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年8月期第3四半期	5,489	1.7	351	△2.5	308	1.1	88	△28.1
21年8月期第3四半期	5,397	—	360	—	305	—	123	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年8月期第3四半期	2,808.46	—
21年8月期第3四半期	3,806.35	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年8月期第3四半期	7,311	1,721	23.4	54,790.14
21年8月期	6,265	1,691	27.0	52,624.54

(参考) 自己資本 22年8月期第3四半期 1,712百万円 21年8月期 1,689百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年8月期	—	500.00	—	500.00	1,000.00
22年8月期	—	500.00	—	—	—
22年8月期(予想)	—	—	—	500.00	1,000.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年8月期の連結業績予想(平成21年9月1日～平成22年8月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,298	3.2	484	19.5	409	17.2	140	13.9	4,373.50

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年8月期第3四半期 33,068株 21年8月期 33,068株

② 期末自己株式数 22年8月期第3四半期 1,810株 21年8月期 958株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年8月期第3四半期 31,583株 21年8月期第3四半期 32,427株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

業績予想の前提となる条件等については、5ページ【定性的情報・財務諸表等】3.連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## ・定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国などの新興国向け輸出の増加や政府の政策効果による個人消費の持ち直しにより回復傾向にあるものの、一部の欧州経済や雇用情勢の悪化による下振れリスクをかかえており、デフレ経済が長期化するなど依然として厳しい状況が続いております。

当社グループが主力事業を展開するカラオケルーム業界におきましては、2008年のカラオケ参加人口が約4,430万人(レジャー白書2009)と推測され2.8%程度の微増となっております。直近の業界動向といたしましては、大手チェーン店の積極的な出店と他業種の参入などにより、長引く経済不安から節約志向が高まっている中で競争がますます激化しております。

こうした状況の下、各カラオケチェーン店は、他店との差別化を図るため飲食店との複合型店舗の推進や飲食メニューの充実、激戦区における低価格戦略への一時的な切替え、郊外出店型チェーンの都市部駅前への出店など、集客と収益稼得に向けた施策を積極的に図っております。また、稼働の低い時間帯の機会損失の対策やファミリー及び主婦層などの新たな需要拡大のため、キッズルームの併設や禁煙ルームなどの促進も積極的に行われております。

喫茶店業界におきましては、運営する形態によりセルフサービス型の珈琲ショップとフルサービス型の喫茶店・珈琲専門店に分類され、その市場規模は2009年において約1兆51億円(外食産業統計資料集)で前年比3.0%減と推測されております。なお、フルサービス型の喫茶店・珈琲専門店は、店舗数・市場規模で同業界全体の大部分を占めておりますが、いずれも長期的に減少傾向にあります。

当業界においても近年スイーツがブームになっており、景気を反映して低価格商品の人気が高く、各社とも低価格でシンプルな定番商品の開発に力をいれております。また、シニア層のお客様をターゲットにした「くつろぎの空間」と「厳選の味」を提供する高級志向の店舗も増加傾向にあります。

その他、ビリヤード・ダーツ業界では、通信対戦型デジタルダーツ機の登場により競技志向の強い顧客層が増加する傾向にあり、スポーツとしてのダーツの普及拡大が見込まれております。複合カフェ業界では、閉店店舗数が新規店舗数を上回る厳しい状況の中、オンラインゲームの利用者数は著しく増加しており重要なコンテンツとしての認識が高まっております。

このような経済情勢及び業界動向にあつて、当社グループは、主力事業であるカラオケルーム運営事業の営業基盤を拡大するため集中的に経営資源を投入し、不動産開発体制を強化することで積極的に店舗数の拡大を図りました。また、競争が激化する環境にあつても、適正な価格設定を維持しサービスの付加価値を一層高めることでリピーターを確保するための施策としてコンテンツ開発に取り組みしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高5,489百万円(前年同四半期比1.7%増)、経常利益308百万円(同1.1%増)、四半期純利益88百万円(同28.1%減)となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

なお、以下の売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

また、前連結会計年度まで区分表示しておりました「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」及び「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」並びに「音響設備販売事業」、「音源販売事業」は、金額の重要性及び事業領域の統合を考慮し、第1四半期連結会計期間より「その他の事業」に含めることといたしました。そのため、前年同四半期連結累計期間の数値を変更後の事業区分に組み替えて、前年同四半期連結累計期間との比較を行っております。

## (カラオケルーム運営事業)

当事業におきましては、長期化する景気低迷により需要も低迷しておりますが、前期に出店した新店が相当程度貢献したため、業績は予定どおりに推移いたしました。

出店計画におきましては、ミニ鉄人システムを設備した駅前型カラオケ店を新規に8店舗出店(内、1店舗は駅前好立地への移転、1店舗は商圏環境を考慮し2店舗を1店舗へ統合)し、当第3四半期連結会計期間末の直営店は44店舗となりました。

サービス面におきましては、カラオケファンの顧客満足度を高めるために当社独自のコンテンツ開発に積極的に取り組みました。また、前期より開始した「新会員システム」の登録会員数が平成22年5月31日現在で54万人となっており、前期末当該会員数26万人から飛躍的に増加いたしました。

また、お客様に楽しんでいただける新たなコンテンツとして、今年3月より「チャレンジ課題曲機能」や「電子ビンゴゲーム」のサービスを開始いたしました。

営業面におきましては、新たな販促ツールとして最近話題の「Twitter(ツイッター)」の利用を開始いたしました。

さらに、店舗運営面では引き続き、独自のQMSC運動(Qクオリティ&Mメンテナンス:品質、Sサービス:おもてなし、Cクレンリネス:清潔な空間)を実施し、既存のサービスの向上を徹底するほか、安全性と店内環境の改善を考慮したフライヤーレス化やIH(電磁誘導加熱)化の推進に取り組みました。なお、比較可能な既存店※の売上高は、一部の地域における低価格志向と競合激化が影響し、前年同四半期比94.0%となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,439百万円(前年同四半期比7.7%増)、営業利益は774百万円(同2.6%増)となりました。

※比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。以下、同様であります。

## (フルサービス型珈琲ショップ運営事業)

当事業におきましては、景気低迷の影響を受けることなく業績は予定どおりに推移いたしました。からふね屋珈琲店・本店では、210種類を超えるパフェメニューのほか、ボリューム10倍の「ジャンボパフェシリーズ」などバラエティーに富んだメニューを提供いたしました。神戸プレッティ店では、リニューアルを機にパフェメニューを約30種類に増加させており、本店以外の店舗でも季節に合わせた新商品の開発などメニューの充実に取り組んでおります。

店舗運営におきましては、本店の業績向上を図るため、「からふね屋珈琲店」のブランド力強化に向けた広報活動を促進するとともに、店舗オペレーションの生産性を向上させるための人員体制を整備いたしました。

また、京都市新景観条例への対応として市内2店舗の設備の改善作業を進めております。

なお、比較可能な既存店の売上高は、前年同四半期比105.1%となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は513百万円（前年同四半期比1.4%増）、営業利益は28百万円（同76.2%増）となりました。

## (その他の事業)

その他の事業の業績概要は、以下のとおりです。

ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業におきましては、ダーツ遊技において競技志向の顧客層が増加傾向にあり、ダーツ機はアーケードゲームのひとつとしてゲームセンターなどにも拡がっております。新たな競合の参入により競争はさらに激化しており業績の厳しい状況が続いております。対策としては、ダーツトーナメントにおいてのライトユーズ層を意識したイベント性の高いものを企画し、お客様の囲い込み戦略を図っております。

複合カフェ運営事業におきましては、オンラインゲームで業界最多規模の60以上のタイトル数を提供し、その全てのゲームが常に最新版で安全かつ快適に利用可能な状態に保つためのシステムの強化に取り組みましたが、飽和した商圈環境において業績は低迷いたしました。

また、東京都の条例改正に伴い7月より複合カフェ店舗の会員制が義務づけられるため、対応準備を進めております。

音響設備販売事業におきましては、カラオケ機器及び周辺機器の販売並びに同機器のメンテナンス業務を行ないました。

音源販売事業におきましては、携帯サイト向け音楽配信ASPコンテンツサービス※の販売を推進いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は790百万円（前年同四半期比24.1%減）、営業利益は3百万円（同95.4%減）となりました。

※ASPコンテンツサービスとは、インターネットを利用して、業務用アプリケーションソフト並びにデジタルコンテンツを顧客にレンタルするサービスをいいます。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (1) 財政状態の変動状況

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における、資産の合計は、7,311百万円となり、前連結会計年度末に比較して1,045百万円増加いたしました。

流動資産は、2,749百万円となり、同772百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の増加700百万円によるものであります。固定資産は、4,562百万円となり、同272百万円増加いたしました。主な要因は、カラオケ店舗の出店による店舗設備及び差入保証金の増加によるものであります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における、負債の合計は、5,590百万円となり、前連結会計年度末に比較して1,015百万円増加いたしました。主な要因は、長期・短期借入金の増加670百万円及び社債の増加280百万円によるものであります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における、純資産の合計は、1,721百万円となり、前連結会計年度末に比較して29百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金の増加57百万円と自己株式の取得による減少34百万円によるものであります。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前連結会計年度末に比較して720百万円(前年同四半期比24.5%減)増加し、2,236百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、541百万円(前年同四半期比8.1%増)となりました。収入の主な内訳は税金等調整前四半期純利益194百万円、減価償却費279百万円、減損損失26百万円、のれん償却額39百万円、固定資産除却損79百万円及び仕入債務の増減額52百万円によるものであり、支出の主な内訳は法人税等の支払額148百万円等によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、666百万円(前年同四半期比10.1%増)となりました。これは主に新規出店等に伴う有形固定資産の取得506百万円及び店舗入居保証金の差入れによる支出191百万円によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は、845百万円(前年同四半期比20.1%減)となりました。これは主に長期借入による2,027百万円及び社債の発行による388百万円の資金調達を行った一方で、短期借入金の返済75百万円、長期借入金の返済1,282百万円及び社債の償還120百万円を行ったことによるものであります。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの業績は、その事業規模からカラオケルーム運営事業に大きく依存しております。カラオケルーム運営事業は、忘年会等が行われる時期を含む第2四半期と歓送迎会等が行われる時期を含む第3四半期に売上が偏重する傾向があるため、各四半期の業績が必ずしも通期の業績に連動するとは限りません。

また、個人消費の節約志向などでデフレ基調が進んでいることからレジャー施設への集客が大幅に減少するなど当社グループの営業努力で解決できない事態となった場合には、業績が影響を受ける可能性があります。

以上のことを踏まえた平成22年8月期の業績予想は以下のとおりです。

カラオケルーム運営事業におきましては、前期の新店が好調に業績を上げており、既存店も回復の兆しが見られます。また、フルサービス型珈琲ショップ運営事業におきましては、当第3四半期連結累計期間までの業績が予定に対し堅調に推移していることから、概ね予定通りの業績を見込んでおります。しかしながら、ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業並びに複合カフェ運営事業におきましては、業績低迷が続いており、今後も厳しい状況で推移するものと見込まれますが、業績全体への影響は軽微なものと判断しております。

以上の状況により、現時点における当期の業績見通しは、全体で予定通りの業績を見込んでおり、平成21年10月7日に公表いたしました平成22年8月期の通期の業績予想に変更はありません。

なお、当期におきましては、新規出店並びに新店候補地の確保が順調であり、当初予定数以上の新規出店の可能性があります。当社グループといたしましては、長期化する景気低迷の経済環境が事業規模拡大の好機であると捉えており、できる限りの出店を推進していく方針であります。この場合において、予定数以上の新規出店を実施することによるインシヤルコストの負担で通期業績に影響を受ける可能性があります。

※当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

## 4. その他

## (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

## (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

## ①簡便な会計処理

## ・一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

## ・固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

## ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

## (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

## 5. 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,285,314	1,584,602
受取手形及び売掛金	63,952	65,227
商品及び製品	10,022	8,391
仕掛品	3,150	2,515
原材料及び貯蔵品	82,708	49,411
その他	304,209	266,446
貸倒引当金	△246	△281
流動資産合計	2,749,111	1,976,312
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,226,404	2,025,286
工具、器具及び備品(純額)	282,071	265,136
その他(純額)	307,178	305,744
有形固定資産合計	2,815,654	2,596,168
無形固定資産		
のれん	293,949	342,204
その他	64,634	70,251
無形固定資産合計	358,584	412,456
投資その他の資産		
差入保証金	1,167,710	1,093,397
その他	221,806	188,400
貸倒引当金	△1,226	△835
投資その他の資産合計	1,388,290	1,280,962
固定資産合計	4,562,529	4,289,587
資産合計	7,311,640	6,265,899

(単位:千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	171,469	146,593
短期借入金	—	75,000
1年内返済予定の長期借入金	1,671,054	1,515,662
1年内償還予定の社債	240,000	160,000
未払費用	368,520	328,175
未払法人税等	64,067	103,710
賞与引当金	6,500	7,464
その他	207,363	152,248
流動負債合計	2,728,974	2,488,853
固定負債		
社債	700,000	500,000
長期借入金	2,014,425	1,424,461
その他	146,642	160,900
固定負債合計	2,861,067	2,085,361
負債合計	5,590,041	4,574,214
純資産の部		
株主資本		
資本金	732,394	732,394
資本剰余金	725,552	725,552
利益剰余金	320,287	263,272
自己株式	△66,485	△32,334
株主資本合計	1,711,748	1,688,884
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	881	889
評価・換算差額等合計	881	889
新株予約権	8,968	1,910
純資産合計	1,721,599	1,691,685
負債純資産合計	7,311,640	6,265,899

## (2) 【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年9月1日 至平成21年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年9月1日 至平成22年5月31日)
売上高	5,397,452	5,489,298
売上原価	4,265,794	4,385,754
売上総利益	1,131,657	1,103,543
販売費及び一般管理費	771,631	752,386
営業利益	360,026	351,156
営業外収益		
受取利息	1,107	400
受取配当金	116	128
協賛金収入	18,281	11,862
設備賃貸料	7,362	7,304
保険解約返戻金	—	13,776
その他	9,128	11,634
営業外収益合計	35,995	45,107
営業外費用		
支払利息	60,270	60,605
社債発行費	13,491	11,256
支払手数料	11,959	12,994
その他	5,169	2,919
営業外費用合計	90,890	87,775
経常利益	305,131	308,489
特別利益		
固定資産売却益	6,876	1,701
特別利益合計	6,876	1,701
特別損失		
固定資産除却損	23,225	79,615
減損損失	—	26,064
前渡金評価損	—	9,900
その他	2,028	—
特別損失合計	25,253	115,580
税金等調整前四半期純利益	286,754	194,610
法人税、住民税及び事業税	81,445	108,844
法人税等調整額	81,880	△2,933
法人税等合計	163,326	105,910
四半期純利益	123,428	88,699

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年9月1日 至平成21年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年9月1日 至平成22年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	286,754	194,610
減価償却費	301,535	279,676
減損損失	—	26,064
のれん償却額	39,005	39,005
株式報酬費用	—	7,057
長期前払費用償却額	28,977	23,422
貸倒引当金の増減額（△は減少）	637	356
受取利息及び受取配当金	△1,223	△528
支払利息及び社債利息	60,270	60,605
社債発行費	13,491	11,256
有形固定資産売却損益（△は益）	△6,876	△1,701
前渡金評価損	—	9,900
固定資産除却損	23,225	79,615
売上債権の増減額（△は増加）	3,353	△1,171
たな卸資産の増減額（△は増加）	2,318	△35,564
仕入債務の増減額（△は減少）	△63,543	52,758
その他	36,550	2,717
小計	724,477	748,081
利息及び配当金の受取額	1,223	528
利息の支払額	△54,325	△58,131
法人税等の支払額	△170,097	△148,503
営業活動によるキャッシュ・フロー	501,278	541,974
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△579,983	△506,187
有形固定資産の売却による収入	30,418	7,452
無形固定資産の取得による支出	△12,255	△11,730
差入保証金の差入による支出	△131,411	△191,008
差入保証金の回収による収入	62,912	16,684
投資その他の資産の増減額（△は増加）	24,977	18,140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△605,342	△666,648
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	100,000	—
短期借入金の返済による支出	△83,337	△75,000
長期借入れによる収入	1,860,950	2,027,500
長期借入金の返済による支出	△1,086,116	△1,282,144
社債の発行による収入	486,508	388,743
社債の償還による支出	△135,000	△120,000
リース債務の返済による支出	△17,503	△32,328
自己株式の取得による支出	△32,334	△34,151
配当金の支払額	△34,748	△27,193
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,058,418	845,426
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	954,354	720,752
現金及び現金同等物の期首残高	760,810	1,516,221
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,715,165	2,236,973

## (4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年9月1日 至 平成22年5月31日)  
該当事項はありません。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年9月1日 至 平成22年5月31日)  
該当事項はありません。

## 6. その他の情報

## (1) 生産、受注及び販売の状況

## ① 生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比 (%)
その他の事業	133,594	△ 50.7
合計	133,594	△ 50.7

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 前連結会計年度まで区分表示しておりました「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」及び「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」並びに「音響設備販売事業」、「音源販売事業」は、第1四半期連結会計期間より「その他の事業」に含めることといたしました。そのため、前年同四半期の数値を変更後の事業区分に組み替えて、前年同四半期との比較を行っております。

## ② 受注状況

当第3四半期連結累計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
その他の事業	126,589	△ 36.9	15,152	530.6
合計	126,589	△ 36.9	15,152	530.6

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 前連結会計年度まで区分表示しておりました「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」及び「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」並びに「音響設備販売事業」、「音源販売事業」は、第1四半期連結会計期間より「その他の事業」に含めることといたしました。そのため、前年同四半期の数値を変更後の事業区分に組み替えて、前年同四半期との比較を行っております。

## ③ 販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比 (%)
カラオケルーム運営事業	4,439,481	7.7
フルサービス型珈琲ショップ運営事業	492,455	△0.2
その他の事業	557,361	△28.7
合計	5,489,298	1.7

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 前連結会計年度まで区分表示しておりました「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」及び「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」並びに「音響設備販売事業」、「音源販売事業」は、第1四半期連結会計期間より「その他の事業」に含めることといたしました。そのため、前年同四半期の数値を変更後の事業区分に組み替えて、前年同四半期との比較を行っております。